

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 7月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	0171501075		
法人名	有限会社 Win 北陽		
事業所名	グループホーム 北陽		
所在地	北斗市東前74番地の1 (電話) 0138-77-0037		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年7月22日	評価確定日	平成20年7月30日

【情報提供票より】 (20年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 24日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 16人, 非常勤 1人, 常勤換算 15.9

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	光熱水・日常生活費15,000円 暖房費(10-4月)5,000円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要 (6月 1日現在)

利用者人数	18名	男性 7名	女性 11名
要介護1	3名	要介護2	9名
要介護3	2名	要介護4	4名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 83歳	最低 72歳	最高 90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みなと内科脳外科医院、函館共愛会病院、やなせ皮フ科クリニック、よこやま歯科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム北陽は、大野平野の中心部で自然豊かな田園の中に位置している。事業所内は、食堂と居間を吹き抜けにし、開放感があって明るく広々とした造りになっている。運営者は、福祉施設での経験が豊富で認知症養成講座の講師も努めている。職員の研修会への参加に理解があり、また年間約90名のヘルパー2級の実習生を受け入れ、後進の指導にも熱心である。職員は、理念を毎朝唱和して実践に取り組んでおり、利用者は、ゆったりと自分のペースで生活している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では改善課題はないが、日常的に反省心を忘れずにケアの向上に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニットごとに評価担当者を決めて検討し、全職員に回覧をしてから意見の統一を図り、作成している。職員は、自己評価を日頃のケアの反省と見返りの機会ととらえ、厳しく評価している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は8回実施している。行政側の参加者からはアイデアをいただき、地域の参加者からは、事業所周辺の環境拡充の要請等をしている。自己評価、外部評価については公表して意見をもらうようにしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情相談の窓口については重要事項説明書の中で提示し、玄関ホールにも表示してあるが、文字が小さく確認しづらい。家族が気軽に意見や苦情を表せる機会や場があることを分かりやすく明示して、運営に反映させる取り組みが期待される。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の小学校、幼稚園と相互交流をもったり、町内会行事への参加をしている。近隣の農家の方が、菜園を耕してくれるなど、地域との連携は日常的に行われている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、分かりやすく明快な内容であり、地域の中で安全で快適な生活を営むことを目標にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りの時に、各ユニットで理念を唱和して確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会行事や、小学校、幼稚園の行事に積極的に参加しており、子供達の訪問もある。利用者は、ぞうきん作りや、リンブル、ベルマークを収集して届けるなど地域との交流は盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、日常のケアの反省と見直しの機会と理解しており、評価の担当者が作成して、職員全員に回覧し、協議を重ね、意見を統一して作成した。外部評価の結果も公表して改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自己評価、外部評価を公表している。行政側の参加者からは、アイデアをいただき、地域の参加者からは、事業所周辺の環境拡充を提案するなど、話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	福祉事務所からの相談に対応したり、サポーター養成講座の講師依頼を受けるなど、市の担当者との連携は密接である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを年4回発行し、利用者の日常の暮らしぶりや、職員の異動がある際には紹介記事を載せて家族に届けている。金銭管理は、家族と契約して事業所が管理し、月1回定期的に家族に報告し確認印をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談の窓口については重要事項説明書の中で提示し、玄関ホールにも表示しているが、文字が小さく視認しづらい。	○	苦情相談の窓口について玄関ホールに大きく明示し、家族等の意見を積極的に反映させる取り組みを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、各ユニットの職員を固定化し、馴染みの職員による支援をしている。職員の離職を最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は技術力向上のために、管理者研修等より高度な研修を受講する機会を得ている。研修後は内容を報告して、全職員が共有している。また、消防署に依頼して、救急救命講習なども事業所内で開催するなど、職員の育成に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム連絡協議会の研修会に参加し同業者との交流や、勉強会をしてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の意向を大切に家族と一緒に事業所を見学してもらったり、日中遊びに来てもらうなどして、安定的な利用に移行している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は介護している態度ではなく、共に一緒に楽しく生活している様子がみられ、又、利用者に教わる事が多くその都度言葉で感謝を伝えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、会話や表情などで思いや意向を把握している。居室の仏壇に住職が参拝するなど、利用者の要望にそった支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見や希望を聴き、全職員で課題やアイデアを出し合い、カンファレンスの中で検討し、介護計画に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居時は1-3ヶ月で見直しを行い、その後6ヶ月ごとの見直しであるが、利用者の状態の変化や状況により、家族や本人と相談して随時見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の宿泊支援、通院支援、お墓参りなど利用者と家族の要望を取り入れた支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医での受診が可能であることは、契約時に家族に説明をしている。事業所の協力医に訪問診療に来てもらうケースもあり、複数の医療機関と関係を密にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療的ケアが必要な時には、協力医の指示のもと、医療施設に一時的入院をしてもらうことを家族に説明し承諾を得ているが、終末期にむけた方針については職員と共有していない。	○	運営者は、重度化や終末期のあり方の必要性を理解しており、原案を作成しているのので、方針を明確にし職員と共有することを期待する。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、申し送り時に意識向上を図っており、プライバシーを損ねる対応はしていない。個人情報の記録は所定の場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の遅い利用者には、ゆっくりと見守り、散歩や家庭菜園などに付き添い、一人ひとりの気持ちを尊重して支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、職員と一緒に食事の準備や後かたづけをしており、昼食は楽しいひとときである。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴はできるが、1日3名程度を目安にゆっくりと楽しく入浴ができるように工夫している。浴室の内外を銭湯風に模様替えしたりして、利用者が入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を把握し、家庭菜園、裁縫、散歩など一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	小グループに分かれてドライブ、外食、買い物など外出している様子はホーム便りでも確認出来る。遠出が困難な利用者には、事業所周辺のお花見など、外にでる支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけず出入りは自由である。利用者が外へ出たい様子がある時は、職員間で連携し、見守り支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と直結したシステムがあり、事業所独自のマニュアルを作成したり、避難訓練をしているが、夜間想定訓練はしていない。	○	夜間想定訓練を秋に実施する予定であるので、実現されることを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を毎日記録し、協力医が定期的にチェックして、職員が情報を共有している。職員に栄養士がおり、献立や栄養のバランスなどの指導をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔が保たれており、昔懐かしい装飾品があり、不快な音や臭いは感じられない。大きな窓からは、外の風景が見渡せ季節感を採り入れた造りとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、明るく陽当たりがよく、仏壇やタンスなど使い慣れた調度品や生活用品がある。利用者はお花を飾ったり写真を飾るなどして、居心地よく過ごせるように工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。